

2023 年 4 月から建築学科のカリキュラムが新しくなります

2023 年 1 月 11 日
神戸大学工学部建築学科

●ギャップタームのないカリキュラムになります

これまで、2 年の第 2 クォーター（6 月中旬～8 月上旬頃）をギャップタームとしてきましたが、2023 年度からのカリキュラムでは、工学部の方針に沿って、ギャップタームを実施しないこととします。ギャップタームは、その間、授業を履修せずに海外研修など自由な学修が可能な制度でした。これを有効に利用していた学生も見られましたが、2 年の第 2 クォーターに開講していた科目を前後の学期に振り分けて実施するため全体に密なカリキュラムとなること、カリキュラムが 2 年生の途中で分断してしまうことなど欠点もありました。今回のカリキュラムでは、入学時から卒業に至るカリキュラムの流れを改善しますので、より効果的に建築学を学ぶことができます（注：2022 年度に入学した学生についてはギャップタームを実施します）。

●設計の基礎科目をリニューアルします

従来、入学直後から 2 年生の序盤にかけて開講していた造形演習・図学・設計基礎といった科目群をリニューアルし、新たに「設計基礎 A・B・C」を開講します。これらの科目では、設計演習をはじめ、計画系・構造系・環境系の専門科目群において必要となる作図や模型作りの基礎となる理論や技術を学習します。また、コンピューテーショナル・デザインの基礎講義を新設します。

●2020 年度からの教育目標は継続します

神戸大学建築学科では 2020 年度から「主体性と独自性のある多様な人材の育成を目指す」「与えられるのを待つのでなく、みずからの学びを自分で探究するような学生を育てる」という教育目標を掲げています。これについては、2023 年度からも継続します。2020 年度からの教育プログラムは以下の（1）～（5）のような特徴をもっています。

（1） 厳選された専門科目

従来と比べてスリムなカリキュラムとし、4 年間に学ぶべき基本事項を明確にしました。みずからの学びをひろげていくために必要な科目群です。

（2） 入学直後から建築の専門科目の授業を開始

建築を学びたい！という新入生のモチベーションに入学直後から応えます。大学 4 年間での「建築学の探究」の時間を最大限に活用できます。

（3） 年に 1 回「建築学・学修記録」を作成

作文で、それまでの学びを振り返り、これからの学びや将来像を自分で考えます。作文シートのシステムを導入し、みずからの学びの探究をアシストします。卒業研究や進学・就職のイメージを入学直後から形成していきます。

（4） 「探究型建築演習」の開講（3 年後期）

目的意識をしっかりと持った少人数の学生と 1 人の教員が、通常授業の範囲を超える高度に専門的な演習や研究を行う科目です。3 年前期までに建築学の基礎学力をしっかりと固めており、なおかつ意欲的な学生がみずから企画・提案した課題が当該教員に受け入れられた場合に取り組むことのできる科目です。これまでの授業とは性質を異にする科目です。

（5） 必修の「卒業研究」（4 年）

カリキュラムの最終段階で、1 人の教員を中心とした「研究室」に 3～4 名程度の学生が配属され、みずからの学びを新しいかたちにします。4 年生は、授業ではなく、日々「研究」に取り組み、「卒業研究」をまとめます。

1年				2年				3年				4年			
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
												卒業研究 みずからの学びを新しいかたちにする			
										探究型建築演習 みずからの学びをつかむ					
専門科目 建築の学びを広め、深める															
専門科目 建築の基本を学ぶ															
教養・語学・情報・健スポ・工学部共通数学 学びの基盤をつくる															

建築学科のカリキュラム 4年間の流れ（"Q"はクォーターを表す）

- ・ 建築学以外の一般教養科目・共通基礎科目については、1年次、2年次に比較的多く履修することになりますが、専門科目をある程度履修した後（3年次など）にもできるだけ履修することを推奨します。
- ・ 入学直後から、卒業研究や、大学院進学、就職のイメージを醸成できるようなイベント（例えば、講演会、研究発表会、ワークショップ）の案内を行います。自分から積極的に参加することを推奨します。